

# オニオコゼの種苗生産と放流技術の開発

(資源増大技術開発事業)

道根 淳

## 1. 研究目的

オニオコゼの種苗生産の安定化と効果的な放流技術の開発を行うことで、本種の栽培漁業を進めることができるかどうか検討する。

## 2. 研究方法

### (1) 買い取り調査

浦郷、多伎町、和江、平田市各漁協より漁獲物を購入し、放流魚の混獲状況を調査した。標識にはALCを使用しているため、耳石を取り出し、蛍光顕微鏡B励起で観察し、放流魚を確認した。

### (2) 放流魚追跡調査

放流地点から3方向に調査ラインを設置し、放流1, 2, 4日後に潜水による追跡調査を実施した。ライン上に10m毎に調査点を設け、各点半径1m円以内に分布する本種を計測した。また、調査ライン上に設けた9定点でソリネットによる追跡調査も併せて行った。

### (3) 胃内容物調査

放流地点付近に潜砂している放流魚を採取し、胃内容物を調査した。

## 3. 研究結果

### (1) 買い取り調査

標本魚124尾について調べた結果、放流魚は7尾であった。各漁協における漁獲物に占める放流魚の割合は、浦郷漁協で8.8%、多伎町漁協で12.1%であり、和江、平田市両漁協の漁獲物からは放流魚は確認されなかった。漁獲物の大きさは全長150～280mmであり、再捕された放流魚の大きさは全長162～220mmであった。

### (2) 放流魚追跡調査

放流直後は、放流地点付近の砂底表面に着底した状態のもの、直ちに潜砂するものがほとんどであった。また一部、砂の上を移動し、短時間で10m近く移動する個体も確認された。放流後、時間の経過とともに確認される放流魚は減少し、放流4日後には数個体しか確認されなかった。

### (3) 胃内容物調査

放流魚の摂餌率は、放流2日後には25～30%、4日後には岩礁域では30%、砂底域では90%であった。2日後、4日後とも、アミ類の出現割合が高かった。

## 4. 研究成果

- 第4次栽培漁業基本計画対象種に選定され、平成16年度からは栽培漁業センターで種苗生産を行うこととなった。
- 研究結果は、「平成16年度資源増大技術開発事業報告書」に報告した。